新・山と花のたより 246号

２０２１年２月１５日　　松尾　忠
メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp
ＨＰhttp://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com/

↑蔦塚（二上山群の一つ）近くの谷で

続・続・二上山に咲く花々２２

カラタチバナ（唐橘）

サクラソウ科ヤブコウジ属
（旧分類ではヤブコウジ科）

谷筋の日陰に自生しています。数も少なく地味な花（花期は７月頃）なので、目立ちませんが、冬に成る実は真紅で光沢があり、大きな濃緑の葉とのコントラストも鮮やか。そのため、百両とも呼ばれてマンリョウ、センリョウなどと共に、縁起木とされ、正月の飾りにも使われます。実は食べられ、果実酒も造られます。

↓カラタチバナの花

縁起木の名の由来

この種は江戸時代に品種改良が進み、高い値で取引されたので、「百両」の別名が付けられ、この種より実が大きかったり、多かったりする縁起木に万両、千両の名付けが行なわれたとの事。ちなみにヤブコウジは十両、アリドオシは一両と呼ばれ、いずれも二上山に自生していますが、億両とされるミヤマシキミは二上山ではまだ出会っていません。

天理の竜王山（りゅうおうさん）から巻向山（まきむくやま）へ

電車とバスで柳本に

２月１０日近鉄大阪線桜井駅６：５８発天理駅行き路線バスに乗り、柳本バス停７：１２分着。身支度を整え７：２０長岳寺向けて歩き出す。崇神天皇陵（伝）の大きな墳丘を右に見ながら東進、7:33 天理市トレイルセンターに。ここは南北に走る“山の辺の道”との交差点。紅白の梅が出迎えてくれる。

↑竜王山頂で

長岳寺参道から登山道へ

トイレを済ませ 7：40 出発。山門をくぐり長岳寺の参道を進む。ツツジの中の道だがまだ蕾もついていない。寺には入らず、寺の左側の細い農道を山に向かう。まもなく登山道にはいる手前で大きな羽音をたてて鳥が飛び立った。コジュケイだろう。案の定しばらくすると「チョット来い、チョット来い」の鳴き声が響いてきた。

杉の人工林の中の道は、傾斜も急だが、U字状にえぐられた道にさらに溝ができていて歩きにくい。

↑池と竜王社

最初の出会いは外国人

路傍の石仏を眺め、さらに登って8：35ベンチで休んでいると、長身・長髪で髭を蓄えた外国人が降りてきた。リュックを背負い、登山靴を履いている。挨拶すると日本語で返事が返ってきた。京都在住のアメリカ人で先週天理ダムから竜王山頂に登ったので、今日はその時の道までのピストンが目当てだと言う。流暢な日本語にも感心したが、こんなローカルな山に複数回、しかも一人で登る外国人もいるのかと妙な点に感心した。

戦国時代の山城だった

9：20 天理ダムからの車道と合流。ここにトイレがある。この地点で山稜は二つに分かれる。竜王山は戦国時代の山城であり、北の稜線上に「北城址」が、南に南城址がある。大和の豪族の一人十市遠忠が築城し後に松永久秀が攻め取り、天文１４（1545）年織田信長の命令で破却されたと言う。

水神信仰・雨乞いの山

舗装道路を東向いて歩くと、すぐに池があり、その畔に竜王社がある。竜は水の神様、雨乞いの社なのだ。

竜王山頂からの眺め

「ショウジョウバカマの自生地。植物を大切に」の看板が立っており、ショウジョウバカマが葉を広げているが、まだ蕾も付いていない。

素晴らしい山頂からの展望

間もなく、道はカーブし、曲がったところに案内板と山頂への登り口がある。9：45頂上着。標高５８６ｍ。眼下には大和平野がひろがり、平野を隔てた向かい側に金剛山、葛城山など葛城山脈の山々が横たわっている。二上山を感慨深く眺める。

巻向山めざして南に

10：10 巻向山目指して歩きだす。稜線沿いの山道を南東に向かい、林道に出て合鴨の大量飼育舎のそばを抜け、ビニールハウスの畑地の中を歩く。再び山道に入り、小さな峠を越えて11：10県道との交差点に。県道を横切って向かい側の滑りやすい山道を登る。11：18分岐に。左に行けば初瀬山から長谷寺に至る道だが、右に下るように進む。

展望なしの巻向山

なおも稜線上の山道を進むと林道に出、緩やかに登って行くと、峠になった所に巻向山への登り口があり、11：50巻向山着。
標高５６７ｍ。昼食を摂り12：10下山開始。

林道に戻って下り、12：35奥の不動寺着。寺の南の小峠に登り、そこからひたすら下って、13：35朝倉小学校横で国道に出、近鉄朝倉駅から電車で帰宅。長時間の山歩きだった。

「学術会議会員の任命拒否の撤回を求める」署名にご協力下さい

国民救援会中和支部の集約数は４００筆に迫っています。ご協力に感謝し、さらなるお力添えをお願いします。